上つた。資本勞働双方の覺醒を促して切に兩者の階級鬪爭の謬見を正し、其間の協同調和を保つて行くには、兩者の熱心にも偏せずして公正不偏の立場にある機關を組織して、其の誠實なる活動に俟つのは最も適切なる方策である、のみならず天下に資本家と勞働者のみの天下では無い、社會構成の中心分子は大多數の公衆である。資本も社會の爲に存し勞働も社會の爲に存する、社會共同の福祉を離れては資本も勞働も其用を成さぬ、此立場からして兩者の專恣を戒め其の當に趨くべきところを指示さねばならぬ、斯ういふ主義を以て本會創立の議が起つたので、私も滿腔の同感を禁じ得なかつた。そこで一身を此事業に投じた次第であつて、而して此精神は最に勞働組合を援助した時と寸毫も

異ならないのである。世間屢〻もすれば協調會を溫情主義だといふ、蓋し溫情主義の上から見れば洵に結構である、けれども若し其中に强者が一歩を讓つて弱者に恩惠を施すといふ氣分を含んで居るならば、我協調會の趣意とは全然相違する、私をして言はしむれば協調會の趣意は交溫主義であつて、資本家も勞働者も互に敬愛忠恕の心を以て交を溫め合ふのである。斯くして相互に社會の福祉の爲に同心戮力せんとする心のである。――」

從來我國に於ける勞働問題に對する考へ方には溫情主義なる見解が支配し、「日本には古來主從關係若しくは溫情的雇傭關係あるを以て、此の美風を巧に利用せば、敢て歐米の糟粕を嘗める必要なし」とし、勞働組合の法